

起

【3年】
 起る・おこす
 キ

10画
 十 丰 丰 走 起 起
 はねる



なりたち 糸の初めを表した
 己と走との会意形声字。「走る
 初め・走る前の行為」を表した
 字。「立ち上がる・起きる」の
 意味。転じて、「起こる・起こ
 す」こと。

いみじゆく
 ▼起きる。立つ。持ち上げる。
 起立：座った姿勢から立ち上
 がること。

起床：寝床から起き出ること。
 隆起：高く盛り上がること。

用例 隆起した丘。
 起重機：非常に重い物を持ち
 上げたり、移動させたりす
 るための機械。

起こる。始まる。始める。
 ▼起こる。始まる。始める。

起工：工事を始めること。例
 起工式

起点：物事の始まる所。出發
 点。

発起：①ある事を始めようと
 計画すること。例 発起人
 ②思い立つこと。発心。例
 一念発起

起こり。始まり。
 ▼起こり。始まり。

起原：物事の起こり。「起原」
 とも書く。

よみかた 起用・喚起 早起き

記

【2年】
 記す
 せんす

10画
 二 言 言 言 言 記
 はねる



なりたち 糸すじの意味の己
 と言葉の意味の言との会意形
 声字。「言葉を書き記す」ことを表し
 た字。また、「書き記した文」
 の意味。また、「しるし」。

いみじゆく
 ▼書き記す。書きとめる。
 筆記：書き記すこと。また、
 書き記したものの。

記載：書物や書類に書いて載
 せること。例 記載事項

記入：書き入れること。

明記：はっきりと書くこと。

記事：新聞などの、事件や事
 実を書いた文章。

▼書いたもの。
 日記：その日の出来事や感想
 を書いたもの。

伝記：ある人の一生を書きつ
 づつしたもの。

▼心に記す。覚える。
 記憶：過去に経験したことを
 覚えておくこと。また、そ
 の覚えていた内容。

暗記：そらで覚えること。
 ▼印。

記号：ある事柄を表すための
 文字や符号。印。

忌

【おんキ】
 いむ・いまわ

7画
 冫 己 忌 忌
 はねる



なりたち 自己の意味の己と
 心との会意形声字。自分の事
 ばかり考えて、他人を思いや
 る心のないことを表した字。
 それは人間として、最も「忌
 むべき事であるので、「忌む」
 の意味を表した。また、「慎む」
 こと。

いみじゆく
 ▼忌む。嫌う。

忌避：忌み避けること。嫌つ
 て避けること。

禁忌：禁じられた忌み事。忌
 み嫌って、してはいけない
 と禁ずること。①習俗とし
 て、ある月日、食物などを嫌
 って避けること。②ある病
 気に対して禁じられた薬品
 や食品。③タブー。

▼慎む。
 忌中：死者のため一定期間心
 身を慎むこと。

己日：慎むべき日の意味で、
 親の命日。また、広く単に
 「命日」の意味。

年忌：年ごとの忌日に行う仏
 事。

よみかた 忌み明け・忌引き・
 回忌・周忌



妃

【おんヒ】

6画
 女 妃 妃 妃
 はねる



なりたち 配偶者の配の意味
 の己と女との会意形声字。「配
 偶者の女性」という意味の字。
 高貴な人の場合に用いる。「き
 さき」。現在は、わが国では皇
 族・外国では王族以外には用
 いない。

いみじゆく
 ▼高貴な夫人。きさき。

后妃：きさき。昔、后は天子
 の第一夫人、妃は第二夫人
 であった。

貴妃：きさき。唐代、天子の
 第三夫人の称。玄宗皇帝の
 楊貴妃(ひめ)はこれである。

王妃：國王の夫人。

妃殿下：皇族の夫人の敬称。

皇太子・皇子・皇孫の夫人
 に対して用いる。

皇太子妃：皇太子のきさき。

忌妃

